



海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	壽山智也 (すやまともや)
■ グループ名	内海中学校オームとニュートン
■ 学校名	内海村立内海中学校
■ 学 年	中学三年生
■ 年 齢	15歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	児島康隆 (地域の方)、内海村教育委員会、河野謙三 (先生)

■ レポートした場所	愛媛県南宇和郡内海村須の川
■ レポートの題名	須の川の生物と人のつながり
■ 内 容	<p>写真1、2は、須ノ川の昭和30年代と今の写真である。池は今も昔も変わってないが、昔、池の近くにあった田んぼは、学校や公園、国道ができ、今では姿を消している。地域のお年寄の話によると、「昔は田んぼの辺りには、ドジョウ、ウナギ、イモリ、ヒルといった生物が多かったが国道や施設などの建設により生物の住みかが池だけになってしまった。その池の生物も、ある時期には農薬が近くの川から池に流れ激減していた。でも今は農薬が制限され、池や川の生物の種類や数が増えている。」とのことだ。僕が驚いたのは、須ノ川の池と川はただ水が流れてつながっているだけでなく、そこに住んでいる生物の命までつながっていたということだ。その証拠に農薬が制限されると池や川の生物も増えてきた。僕は、農業も大事だと思うけど農薬によって生物が減っていくのは反対だ。だから農薬を制限したことは正解だと思う。これからも農薬を制限したことは続けて欲しいし、池や川の生物にはこれからも生き続けて欲しい。</p> <p>写真3、4は、須ノ川海岸の昔 (昭和30年代) と今の風景である。一番変わった点は、堤防ができたことだ。この堤防は、台風が来るたびに土地が浸食され、高潮のたびに潮が田んぼに入るといった被害を防ぐために昭和44年に作られた。僕は、堤防が作られたことによって災害を防ぐだけではなく、僕ら地域住人の憩いの場所にもなったと思う。堤防からは須の川海岸を一望できる。須の川海岸は渚百選に選ばれた美しい海岸だ。その海岸を一望できるのは、僕たち住人のちょっとしたぜいたく</p>

かもしれない。

かつて須の川の海には、ホゴ、アワビ、ナガレコ、クロニナ、ヒョウシメがたくさんいた。しかし公園ができ、その利用が増えるにつれてそれらの生物が少なくなった。また、公園を訪れる人でゴミが増え、定期的な清掃が必要になった。もちろん利点もある。地域と近くにある施設の収入が増えた。地域の収入が増えることはいいことだが、それによって生物が減ってしまったのはとても悲しいことだ。姿を消した生物は他にもあった。海藻だ。昔は海中の岩によく生えていたそうだが、今ではほとんど見られない。昔の女性の収入源であったノリもそうだ。タコもカキも昔はたくさんいたそうだが今は減少している。これらが減った原因として、僕は二つほど考えた。一つは乱獲で、もう一つは家庭排水や養殖などによる海の汚れだ。いずれにしてもぼくたち人間の生活が関係していることは確かだと思う。僕は自分の地域に多くの人に来て公園を使ってくれることはうれしい。でも使う人には、マナーを守って欲しい。そうすれば昔の生物がもどり、減少している生物は増えるかもしれない。利用する人がもっと海で生物と触れ合う事ができると思う。

また、昔、この付近にサンゴはほとんどいなかったという。ところが昨年、ダイバーがサンゴの群生を見つけ話題になった。なぜサンゴが増えたのだろうか。僕は、地球の温暖化により海水の温度が上昇してサンゴが増加したのではないかと考えている。サンゴは美しい海の象徴なので増えてくれることはうれしいけれど、その原因が温暖化となると素直には喜べない。

僕は自分の地域を調べることで、今と昔の須ノ川の違いを知ることができ、何よりこの須ノ川をこれからも守っていきたいと思った。須の川公園は国立公園に指定され、渚百選にも選ばれた美しい海岸だ。こんなすばらしい地域をこれからの未来に残していくことが僕たち住人の役割だと思う。

■ 写 真 名前 壽山智也



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4